

2024 年 8 月 30 日 全 7 頁

Indicators Update

2024 年 7 月 鉱工業生産

半導体関連財が堅調、大型案件も押し上げ要因

経済調査部 研究員 石川 清香

[要約]

- 2024 年 7 月の生産指数は前月比+2.8%と、2 カ月ぶりに上昇した。電気・情報通信機械工業が大型案件の影響もあって上昇した。生産用機械工業や電子部品・デバイス工業では半導体関連財が増産となり、全体を押し上げた。他方で、石油・石炭製品工業は低下した。
- 先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。シリコンサイクル（世界の半導体市場に見られる循環）の回復で、半導体関連財の生産増加が押し上げ要因となるだろう。また、自動車の生産体制の正常化の進展で、受注残に対応するための挽回生産も見込まれる。ただし、8 月末の台風による工場稼働停止の影響で、生産が下押しされた可能性がある。
- 2024 年 9 月 6 日に公表予定の 7 月分の景気動向指数は先行 CI が前月差±0.0pt の 109.0、一致 CI が同+3.1pt の 116.3 と予想する。この予測値に基づくと、7 月の基調判断は機械的に「改善」に上方修正される。

図表 1：鉱工業指数の概況（季節調整済み前月比、%）

	2023年	2024年								
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
鉱工業生産	+1.2	▲6.7	▲0.6	+4.4	▲0.9	+3.6	▲4.2	+2.8		
コンセンサス								+3.5		
DIR予想								+4.0		
生産予測調査									+2.2	▲3.3
補正值(最頻値)									▲0.9	
出荷	+1.6	▲7.5	▲0.7	+4.7	▲0.4	+3.9	▲4.7	+2.4		
在庫	▲0.9	▲1.7	+0.6	+1.0	▲0.2	+0.9	▲0.7	+0.4		
在庫率	▲2.3	+2.6	▲5.6	+7.6	▲0.7	▲1.2	+1.7	▲2.3		

(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) Bloomberg、経済産業省統計より大和総研作成

【生産】幅広い業種で増産、半導体関連財が堅調

2024年7月の生産指数は前月比+2.8%と、市場コンセンサス（同+3.5%、Bloomberg 調査）を下回ったものの、2カ月ぶりに上昇した。6月には全15業種が低下したが、7月は幅広い業種で上昇となった。経済産業省は基調判断を「一進一退ながら弱含み」から「一進一退」に上方修正した。

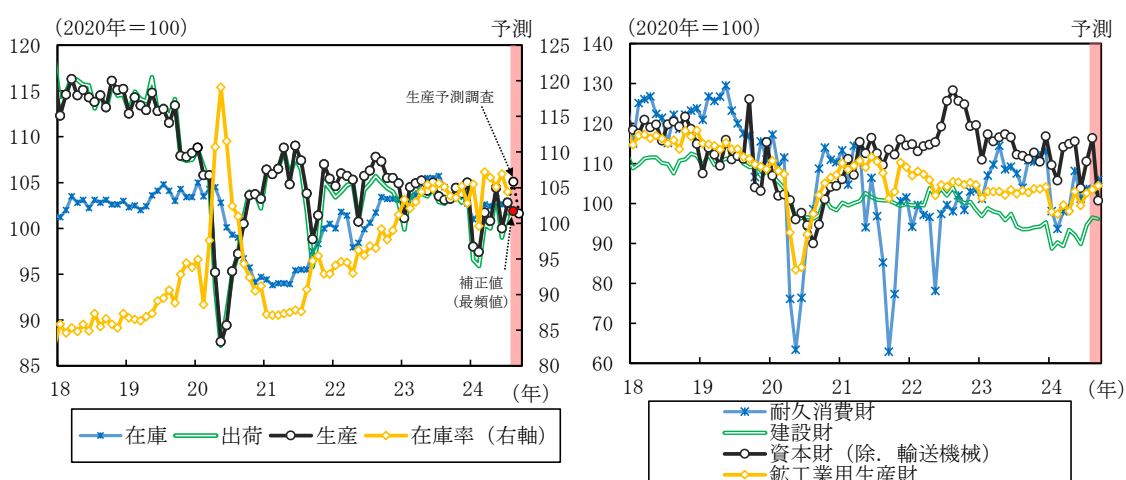
生産指数を業種別に見ると、15業種のうち14業種が前月から上昇した。電気・情報通信機械工業（前月比+7.5%）の寄与度が最も大きかった。大型案件の影響でレーダ装置（同+1011.2%）が急増したことが背景にある。また、生産用機械工業（同+7.0%）や電子部品・デバイス工業（同+9.7%）も上昇した。半導体製造装置（同+30.2%）やモス型 IC（メモリ）（同+34.5%）といった半導体関連財の増産が顕著だ。AI 向けの半導体需要の拡大が増産を後押ししているとみられる。自動車工業（同+1.9%）では、生産体制正常化の進展を背景に、普通乗用車（同+3.4%）や駆動伝導・操縦装置部品（同+1.8%）などが増産となった。他方で、石油・石炭製品工業（同▲7.6%）は低下した。

財別では、鉱工業用生産財（前月比+3.0%）、資本財（除. 輸送機械）（同+6.5%）、建設財（同+5.3%）、耐久消費財（同+2.5%）、非耐久消費財（同+0.2%）のいずれも上昇した。

【出荷・在庫】出荷指数は2カ月ぶりに上昇

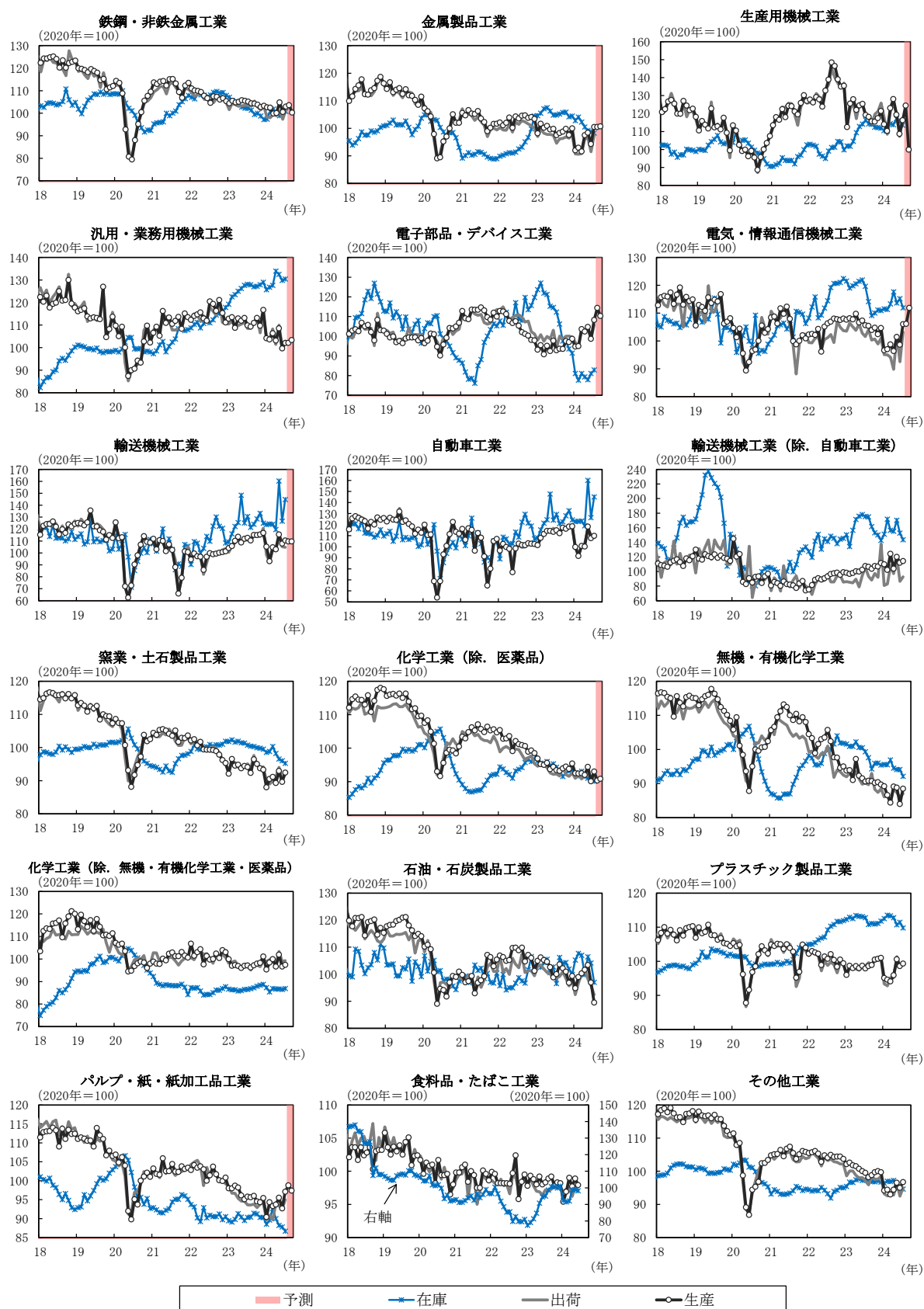
7月の出荷指数は前月比+2.4%と2カ月ぶりに上昇した。業種別では、15業種中13業種が上昇した。電気・情報通信機械工業（同+11.6%）で、前述したレーダ装置（同+1087.4%）の影響が大きく出た。財別では、鉱工業用生産財、資本財（除. 輸送機械）、建設財、耐久消費財が上昇した一方で、非耐久消費財は低下した。在庫指数は同+0.4%、在庫率指数は同▲2.3%となった。

図表2：鉱工業の生産・出荷・在庫（左）と財別の生産（右）



(注) 生産指数の予測値（赤色）は、製造工業生産予測指数の補正值。その他シャドー部分の値は、製造工業生産予測調査による。
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表3：業種別 生産・出荷・在庫の推移



(注1) 生産指数の予測値は、製造工業生産予測調査。化学工業(除. 医薬品)の予測数値は、化学工業全体の予測数値を使用。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

【先行き】生産指数は横ばい圏で推移

先行きの生産指数は、横ばい圏で推移するとみている。シリコンサイクル（世界の半導体市場に見られる循環）の回復で、半導体関連財の生産増加が押し上げ要因となる。また、自動車の生産体制の正常化の進展で、受注残に対応するための挽回生産も見込まれる。ただし、8月は台風の影響で自動車工業などの一部工場が稼働を停止したため、生産が下押しされた可能性がある。

日本半導体製造装置協会によれば、7月の半導体製造装置販売高（速報値）（3カ月平均）¹は前年比+23.6%と7カ月連続で増加した。WSTS（世界半導体市場統計）における6月の世界半導体販売額（3カ月移動平均）も同+18.3%と高水準を維持しており²、米国などにおいてAI向けの半導体関連投資が旺盛とみられる。ただし、このところ半導体関連財の生産が大幅に増加していることもあり、反動減が表れる可能性には注意が必要だ。

自動車の生産体制は正常化が進む見込みだ。ダイハツ工業は、7月17日に2車種の生産を再開し、これをもってすべての現行車種の生産が再開となった。マツダも、7月22日までに対象2車種の生産を再開した。トヨタ自動車は、対象3車種について9月2日より生産を再開すると発表している。生産体制の正常化に伴い、今後は受注残を解消するための挽回生産が生産指数を押し上げるだろう。

ただし、ダイハツ工業は、10月末より複数車種の生産を停止することを明らかにしている。認証不正の影響で新型車などの開発を停止していたため、11月から適用される新基準への対応が間に合わないためだ。一部車種は生産再開まで数カ月かかる可能性もあるといい、影響には注意が必要だ。

加えて、8月末の台風10号による工場稼働停止は生産指数の下押し要因だ。自動車工業では、トヨタ自動車が28日夕方から30日夕方にかけて国内全14工場の稼働を停止したほか、ホンダや日産自動車、ダイハツ工業、マツダなども一部工場の稼働を停止した。それ以外の業種でも、九州地方を中心に工場稼働停止に踏み切った企業が相次ぎ、生産指数が一定程度押し下げられる可能性が高い。

製造工業生産予測調査によると、2024年8月の生産指数は前月比+2.2%（生産指数全体の計画のバイアスを補正した試算値（最頻値）は同▲0.9%）と見込まれている。業種別では11業種中8業種が上昇する見込みだ。生産用機械工業（同+7.0%）では半導体製造装置の生産増が見込まれるほか、電気部品・デバイス工業（同+5.7%）でも増産の見込みだ。ただし調査が行われたのは8月初旬であることから、台風等の影響は織り込まれていない点には注意が必要だ。

9月の生産は前月比▲3.3%となる見込みだ。業種別では、11業種中4業種が低下するとみられている。生産用機械工業（同▲19.7%）や、電子部品・デバイス工業（同▲3.6%）などが低下する見通しだ。

¹ 日本半導体製造装置協会「[2024年7月度販売高（SEAJ速報値）日本製半導体製造装置（3ヶ月平均）](#)」（2024年8月27日）

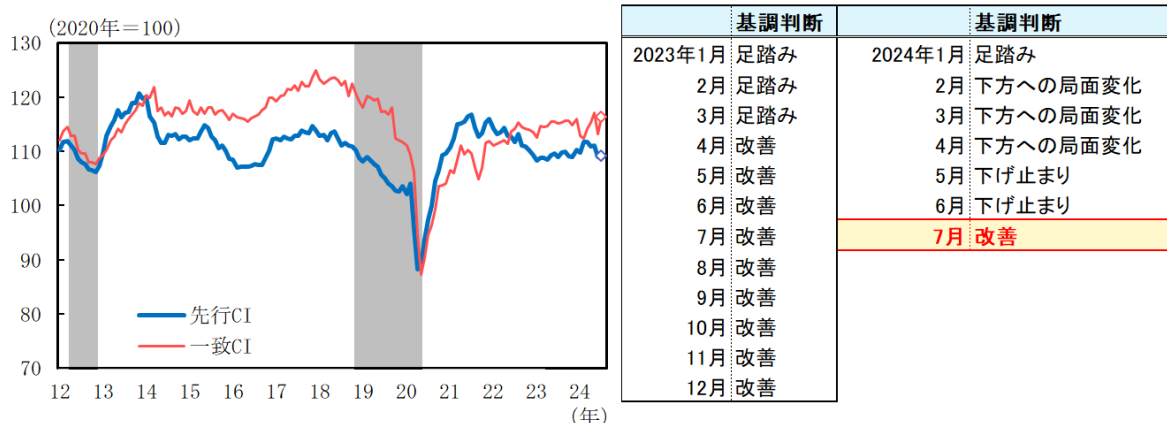
² World Semiconductor Trade Statistics “[Historical Billings Report](#)” (June 2024)

【7月景気動向指数】先行CIは横ばい、一致CIは上昇の見込み

鉱工業指数の結果を受け、2024年9月6日に公表予定の7月分の景気動向指数は先行CIが前月差±0.0ptの109.0、一致CIが同+3.1ptの116.3と予想する（図表4）。先行CIでは構成指標のうち、鉱工業用生産財在庫率指数や最終需要財在庫率指数が改善した一方で、日経商品指数（42種総合）や中小企業売上げ見通しDIなどが悪化した。また一致CIでは構成指標のうち、投資財出荷指数（除輸送機械）や商業販売額（卸売業）（前年同月比）、鉱工業用生産財出荷指数、などが改善した。この予測値に基づくと、7月の基調判断は機械的に「改善」に上方修正される。

先行きの経済は緩やかな改善基調が続くと見ている。4-6月期の実質GDP成長率は前期比年率+3.1%と、自動車の生産体制の正常化の進展や、所得環境の改善などを背景にプラス成長となった³。7-9月期の実質GDP成長率も、民需などの回復が続くことで2四半期連続のプラス成長となるとみている。他方で、海外経済の悪化による輸出の下振れリスクには引き続き注意が必要だ。

図表4：景気動向指数（先行CI、一致CI）と基調判断の推移



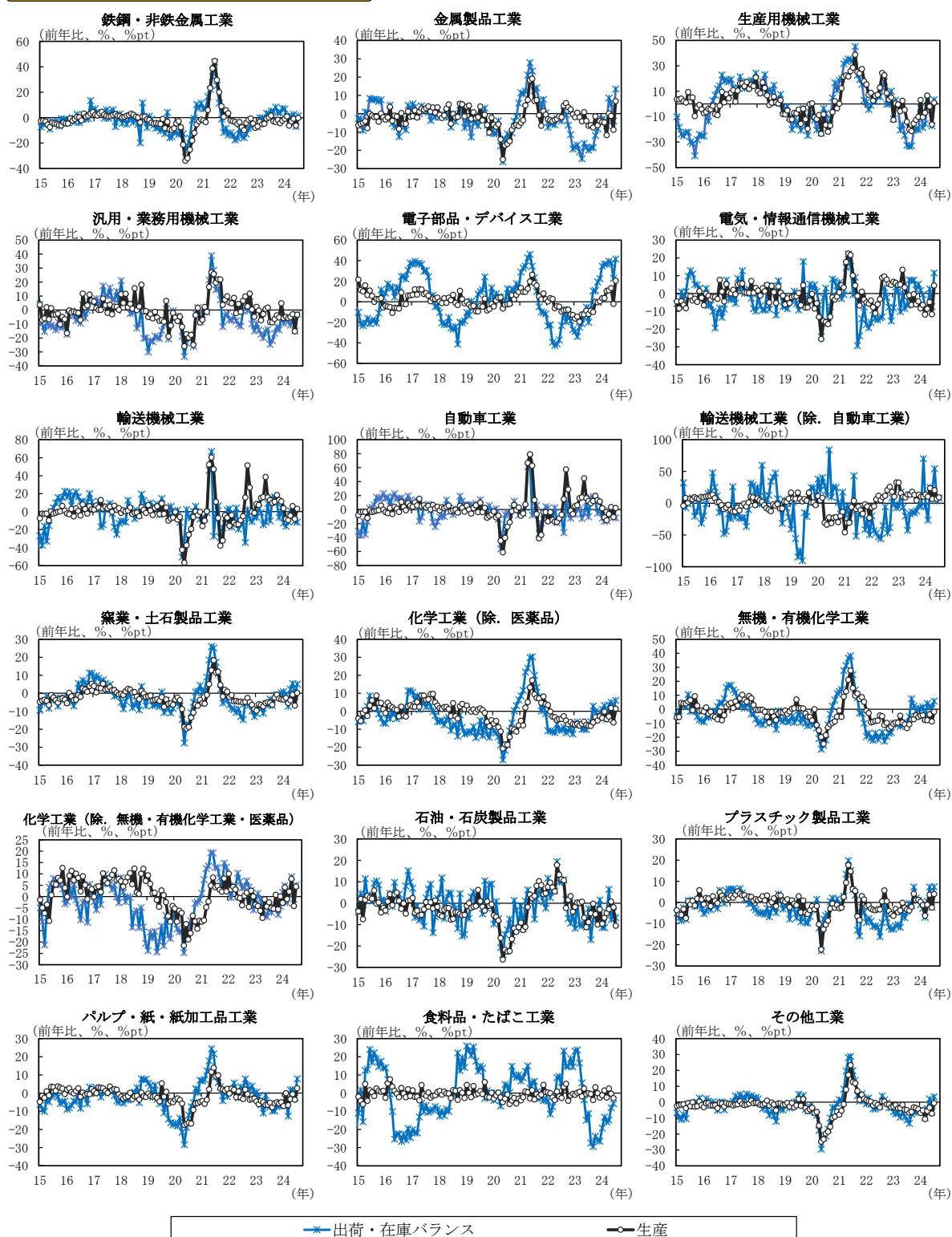
（注）左図の直近は大和総研による予測値。シャドーは景気後退期。

右図の2023年4月以前の基調判断は2015年基準による。2024年7月は大和総研予想。

（出所）内閣府統計より大和総研作成

³ 詳細は神田慶司・田村統久「[2024年4-6月期GDP（1次速報）](#)」（大和総研レポート、2024年8月15日）を参照。

業種別 出荷・在庫バランスと生産



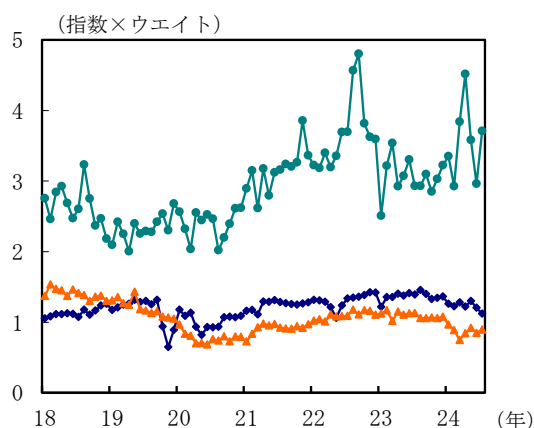
(注1) 出荷・在庫バランス＝出荷前年比－在庫前年比。

(注2) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

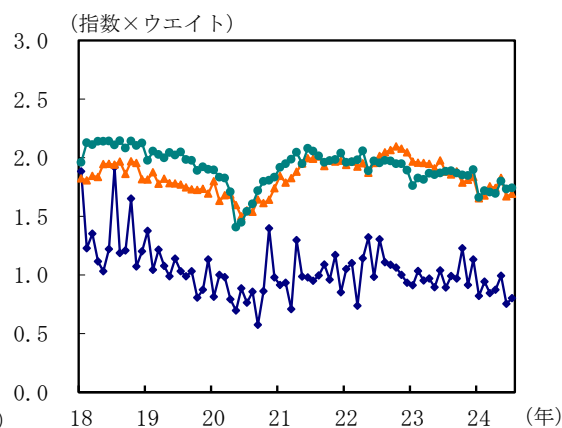
主要産業の生産動向(季節調整値)

生産用機械



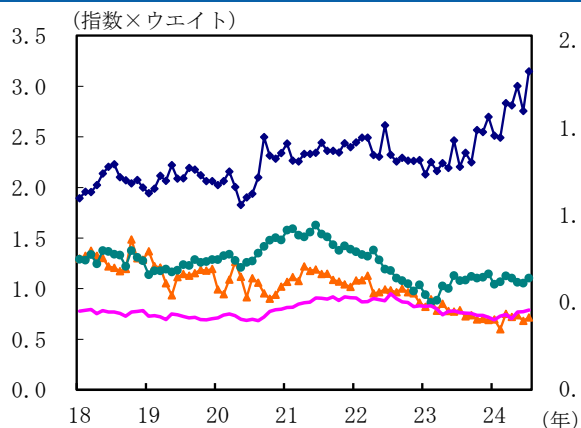
◆ 建設・鉱山機械
▲ 金属加工機械
● 半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置

汎用・業務用機械



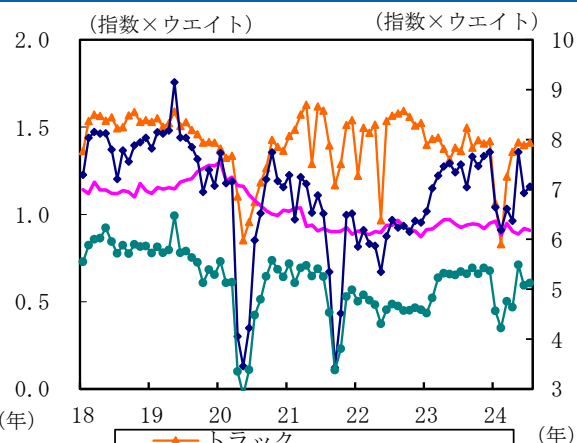
◆ ボイラ・原動機
▲ ポンプ・圧縮機器
● 汎用機械器具部品

電子部品・デバイス



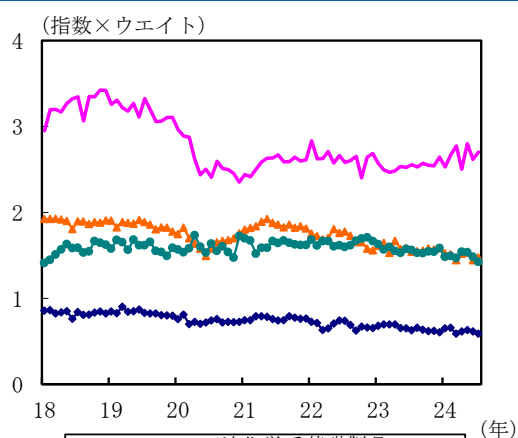
◆ 集積回路（IC） ▲ 電子デバイス
● 電子部品 ▲ 電子回路

輸送機械



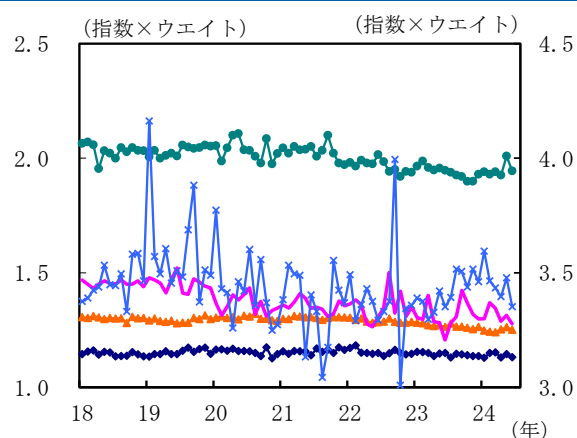
▲ トラック
▲ 船舶・同機関
◆ 乗用車（右軸）
● 車体・自動車部品（右軸）

化学



◆ 石油化学系基礎製品
▲ プラスチック
● 洗剤・界面活性剤
▲ 化粧品

食料品・たばこ工業



◆ 肉加工品 ▲ 乳製品
● パン・菓子 ▲ 清涼飲料
▲ 酒類（右軸）

(注) 食料品・たばこ工業は速報では公表されないため、直近値は前月の確報値。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成